

【高等学校用】

令和8年度学校評価計画

学校名	佐賀県立三養基高等学校
1 前年度 評価結果の概要 (総括)	これまで当校は、令和6年度まで実施した「SAGAスマート・ラーニング(SSL)」等により、地域との関わりをこれまで以上に深め、当校教育活動への協力体制を確立することができた。また、SNS等の広報の充実により学校の認知度が高まり、志願者増の一因となった。学力の向上については、進学面の対応はよくできているものの、家庭学習の充実課題が残った。前年度の成果をもとに各分掌・学年でそれぞれの取組を検証し、今年度更なる改善に取り組んでいきたい。
2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	【スクール・ミッション】旧制三養基中学校創設以来培ってきた地域との協働による学びを深め、地域社会に貢献する人材を育成する。 ○帰国・外国人生徒等の教育拠点校として、多文化共生教育を推進する。 【学校教育目標】平和な国家及び社会に有為な人材を育成するため、校訓「質実剛健」のもと、自主自律の精神の涵養を通して、知・徳・体の調和のとれた教育を目指す。

	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー
3 スクール・ポリシー	<ul style="list-style-type: none"> 三養基高校で学びたいという強い意志を持ち、学習習慣と基本的な学力を身につけた生徒を求めます。 中学校で学校行事や部活動等に積極的に粘り強く取り組んだ生徒を求めます。 高校生活を通して自主自律の精神を養い、これからの社会に貢献していこうとする意欲を持った生徒を求めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に学習を進める場面を重視し、言語能力、思考力、表現力等を育む授業を行います。 「総合的な探究の時間」に「地域課題研究」に取り組み、地域の課題を発見し、解決策を探る中で探究的な学びを深めます。 講演会や「進路研究」、担任による個人面談等を通して、3年間を見通した進路指導を実践します。 学校行事、生徒会活動、部活動等を充実させ、生徒の主体的な取組を支援します。 多文化理解教育の充実を図り、多様な価値観を学ぶ取組を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いに違いを認め合い、共に生きる社会を築いていこうとする態度を身につけます。 自主自律の精神、目標に向けて努力を貫徹する力、未知や困難に対して果敢に挑戦する精神を身につけます。 幅広い進路先で活躍するための、確かな学力を身につけます。 社会への関心を高め、課題の解決に協働して取り組む力を身につけます。

4 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 自主自律と相互尊重の精神を備えた生徒の育成 ② 主体的・対話的で深い学びの充実による学力向上 ③ 特別支援教育と多文化共生教育の推進 ④ 地域・家庭・同窓会との連携
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目			
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	○家庭学習の充実 ○教員の指導力向上	○学校評価アンケートの「家庭学習」に関する項目において、職員・生徒・保護者の70%以上が良い・ほぼ良いと回答するようにする。 ○家庭学習(平日)2時間以上の生徒の割合を80%以上にする。 ○授業評価の「授業は理解できていますか」の項目において「理解できている」と回答する生徒の割合を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> 完全下校の時間(19:20)を厳守させることで、帰宅後の学習時間の確保を図る。 日々の記録やクワッシャーなどを用いて生徒の生活リズムを把握し、面談などを通して学習習慣の定着を図る。 教員1人1人が教材研究を徹底して行いICT機器等も効果的に使用することで、わかりやすい授業を実践する。
	○進路意識の啓発と進路希望の達成	○国公立大学合格者50名、有名私立大学合格者100名を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で進路講演会を実施する。 進路検討会(3年2回)、教科担当者会(3年1回、2年2回、1年2回)、出願検討会(3年1回)を実施し、職員間での情報共有と改善策の検討を行う。
●心の教育	◎生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	◎道徳教育全体計画及び人権・同和教育年間指導計画に基づいて授業や指導を行った教員の割合を90%以上にする。 ●学校評価アンケートの「道徳」に関する項目において、できたと回答する生徒の割合を70%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> 各教科、特別活動、総合的な探究の時間、各種講演会、読書の時間、清掃活動などのボランティア活動、地域社会との関わりを深める取組など、あらゆる機会をとらえて心の教育を行う。 HR活動や総合的な探究の時間の中で、様々な活動を通して、他者理解を深める。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校評価アンケートの、SNSの利用に伴う防犯の意識の調査で、高まったと回答する生徒の割合を95%以上にする。 ●学校生活全般に目を向け、いじめの認知・認知を適切に行い、いじめ解消を100%にする。また、いじめの重大事案を0件にする。	<ul style="list-style-type: none"> 「防犯講話や集会等でSNSについて注意喚起し、適切なSNSの使用方法を理解させる。 全校集会、学年集会などの講話で、常にいじめについて話をする。年間2回のアンケートを実施し、学年・部活動顧問と連携を取り、いじめを許さない学校づくりを目指す。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒の割合を70%以上にする。 ○「平均睡眠時間6時間以上」の生徒の割合を80%以上にする。 ○原因と思われる内科的症状での保健室への来室者数を前年度比で90%以下にする。	<ul style="list-style-type: none"> 「保健・食育だより」の発行。 担任及び保健委員会からHRで呼びかけ。 保健室来室者への個別指導。
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●昨年は軽微な接触事故が2～3件で交通事故に関しては激減した。よって今年は「交通事故ゼロ」を目指して様々なことに取り組む。 ○今年度より自転車交通違反制度がスタートしたことを踏まえ、交通違反者無くすとともに、ヘルメットの着用率を50%にする。	<ul style="list-style-type: none"> 交通マナー、交通ルールを遵守させ、登下校の際には、決められた通学路を登下校させる。 危険箇所マップを全クラスに掲示するとともに、クワッシャーで配信して交通安全を呼びかける。 交通講話や生徒指導主事から注意喚起する。ヘルメットに関しては防止型・ハット型のヘルメットを紹介するなど、対策を考えたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●1か月の時間外在校時間が45時間以下の教育職員の割合及び1年間の時間外在校時間が360時間以下の教育職員の割合について100%達成を目指す。 ●1年間における教育職員の1か月平均の時間外在校等時間について平均で30時間程度とすることを旨とする。 ●教育職員1人当たりの年次有給休暇の取得について14日以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 定時退勤日を毎週月曜日に設定するとともに、長期休業中は毎日の定時退勤を推進する。 月45h以上及び年間360時間以上の時間外在校等時間が発生しないよう、業務の効率化に取り組む。 年次休暇を取得しやすい職場の雰囲気醸成するとともに、授業日以外の休業日における積極的な取得を呼びかける。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員85%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育に関する演習を交えた研修会を実施する。 スクールカウンセラーとの連携を図り、関係者間で情報を共有する。 必要に応じたケース会議の開催、関係者間での情報共有を密にする。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合80%以上、教職員の割合90%以上 ★県外からの入学者数3人以上	<ul style="list-style-type: none"> みやき町役場と連携したボランティア活動等とそれに関連した教育活動を実施する。 HP、SNSなどを活用し、学校の魅力を積極的に発信し、Instagramは即時性を重視し更新していく。 地域への貢献として、生徒会主体の全学年清掃活動を年間2回実施する。
○帰国・外国人生徒募集	○帰国・外国人生徒募集枠における生徒の受け入れに向けた取組の推進	○募集枠について学外への周知に努める。 ○先進校視察を2校以上行う。	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会で周知する。 学習面、生活面の指導について校内研修会を実施する。 教育課程編成に向け、先進校視察を行う。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり